No.11

東京文化資源会議

［ティーチャ］

T-Cha

ニューズレター

東京文化資源会議
Tokyo Cultural Heritage Alliance

2020年夏、開幕。市民主導の国際展

「東京ビエンナーレ」

作家・市民主導の国際展がついに始まる

「東京ビエンナーレ」ー美術史に詳しい方には聞き覚えのある言葉かもしれませんーは、戦後の復興期に上野の東京都美術館で行われていた国際展です。そこから半世紀が経った2020年、新たな「東京ビエンナーレ」が幕を開けようとしています。

「昨今、流行的に開催されている国際芸術祭は、行政主導、美術館主導、そしてアートのための国際催事にとどまっているように思います。2020年から新たに始まる東京ビエンナーレは、あくまでも市民主導、ひいてはアーティスト主導という点で他の国際芸術祭とは一線を画すものです」。そう話すのは、東京ビエンナーレ共同代表、そして東京文化資源会議幹事でもある東京藝術大学教授・中村政人氏。中村氏は、1993年銀座界隈の街中に突如として作品を配し、パフォーマンスを行うゲ

NEXT PAGE

リラ型の自主企画展「ザ・ギンブラート」の発起人としても知られてます。それ以降、街に住まう市民との対話という新たな視点を交え、数々の作品を生み出してきました。

遡ること10年前、２０１０年にオープンした、今回の取材場所でもあるアーツ千代田３３３１もそうして企画された場所の一つです。単なる箱ではなく、市民がプログラムを体験しながら思考し、創造性を喚起するための開かれた場所。「街という公共空間の中で突如として作品と出会い、それを体験し、再び街に戻るという行為を通じて、体験者自身の創造性が喚起される、アートが生まれる瞬間をつくり出す社会実験的なプロジェクトです。これは作品を路上においた『ザ・ギンブラート』にも、文化施設（箱）を街においた『アーツ千代田３３３１』にも、パフォーマンスを街全体に点在させる『東京ビエンナーレ』にも通底する思想です」（中村氏）実際、アーツ千代田３３３１企画の際、２００９年に千代田区に提出した提案書には、東京ビエンナーレの開催についても記載されているのです。

作品の魅力を引き出す「場」のポテンシャル

東京ビエンナーレの実施エリアは、東京都心北東部の千代田区・中央区・文京区・台東区にまたがる地域。「東京文化資源区」の地域と重なります。

中村氏は「東京ビエンナーレを企画する僕ら自身がすべきことは、このエリアの可能性を引き出すために、あらためて誰がどのように住まい、どのような思いで文化資源を管理運営しているのかを丁寧に感じ取ることです。街を知ること、当日の展示やパフォーマンス、それを体験した後の市民のアクションを含めた一連が『東京ビエンナーレ』だと考えています」と語ります。

東京ビエンナーレの会期は、２０２０年７月12日から９月６日までの57日間。すでに参加アーティストも決定し、彼らの作品の魅力を最大限引き出せる場とマッチングさせるべく、運営側が展示会場の割り振りを行っている最中とのこと。

国内外から約１，５００組以上の応募が集まった公募プログラム名は「ソーシャルダイブプロジェクト」。東京という街に対する期待を抱き、街に飛び込むアクションの意味が込められており、応募数からも世界中から東京という街への期待を感じ取ることができます。

「テーマでもある、表現することの『純粋』さ、市民や社会に対峙する時の緊張感・『切実』さ、常識を覆すまたは時代の先をゆく『逸脱』の３点を満たした12組のアーティストが選ばれました。その他、各界を牽引する作家やクリエイターをゲストとして招くなど約64組の参加が決定しています。どれも単なる置物的な作品ではなく、場の力を喚起し、市民の創造性を引き出すまったく新しい体験を生み出すものです」（中村氏）

会期を４ヶ月後に控え、すでに展示会場が決定したものもあります。例えば、湯島聖堂では宮永愛子氏による「聖の空間」の展示を予定しているとのこと。関東大震災の復興を記念して神田川にかけられた聖橋の北端にある湯島聖堂は、日本における図書館の発祥とも言われています。本をかたどったガラスや古代の石・サヌカイトを配すこのインスタレーションは、湯島聖堂そのものが持っている気配やイメージ、場の力によって、過去を鎮魂し、未来に捧げるための聖なる展示に昇華されることでしょう。

街の至るところで瞬間的な創造が起きる

作品やプログラムとの出会いを通じて、創造性を生み出す仕組みとしての東京ビエンナーレ。利便性と合理性の追求によってつくられた大都市・東京で行うことは、街そのものについて考えるとともに現代の社会課題について思いを巡らすきっかけにもなるはずです。歴史的・地理的な特徴から、日本において多様性が語られることは多くありませんでした。ただ、その反面、都市地方問わず古くから根強く定着している村社会の概念は、その地域に住まう人々を結び、ともに暮らす共同性、いわば多様性の尊重なしには実現できないものです。東京ビエンナーレにおいて「私／私たち」が住まう東京の街に触れ、当事者として場と結びついたプログラムや作品を体験することは、現代社会で言われ続けているダイバーシティの理解への契機となるのではないでしょうか。

とりわけ「ソーシャルダイブプロジェクト」において参加が決定したアーティストのなかには、新しい視点で社会課題を提起するものが多数見受けられます。自分が描く絵画の対価としてその家庭で食事をご馳走になるプログラム、都会の雑踏のなかで目の前に座りヘッドホンを付けたその人だけに曲を届けるインスタレーション……どれも現代の東京の街で行うことに大きな意味がある作品です。他にも、今まで結びつかなかった他分野・他領域との新たな関連性、ビジネスシーズになり得るような新たな価値観を表現した作品やプログラムが多くあるとのこと。

中村氏曰く、今年の東京ビエンナーレは「０回目としての位置付け」。場の魅力の開拓、市民の意識が相まって、回を重ねるごとに意味深いものになるでしょう。そういった意味で常に発展の余地を残して続いていく国際芸術祭です。プログラムを体験することはもちろん、そこで喚起された創造性を日常生活や街での暮らしに取り入れてみてはいかがでしょうか。

東京文化資源会議は東京ビエンナーレとも連携していきながら、文化資源区における新たな文化創造を今後の推し進めていきたいと思います。

（記事構成：野口雅乃　撮影：鈴木渉）

Masato Nakamura

T-Cha NOW TOKYO PROJECT

**東京文化資源会議では、民産官学の様々な分野の専門家や実践者が集い、
東京の各地域で育まれている様々な文化資源をハード面・ソフト面から活用するプロジェクトを推進しています。
ここでは、東京文化資源会議全体の動向や各プロジェクトの近況をお知らせします。**

空きスナック活用 第二回目に向けて 絶賛準備中

昨年より、不忍池の南、上野～湯島にまたがる池之端仲町エリアを中心に活動している上野スクエア構想プロジェクト。2019年9月に初開催し、盛況を博したイベント「第1回アーツ&スナック運動 ―池之端仲町をひらく二日間」の成果をまとめた冊子が、この度完成しました。

地元ビルオーナーや東京文化資源会議関係者の寄稿はもちろん、来場者の声、周辺店舗の皆様の反応、当日のトークイベントの書き起こしなど、魅力満載の一冊が出来上がりました。1冊500円、地元のバーなどでも販売されています。ぜひ一度手に取ってご覧ください。

現在、この冊子をもとに「第2回アーツ&スナック運動」の開催に向けて、地元ビルオーナーと連携した勉強会を再開しました。第2回の開催時期はまだ流動的ですが、〝空きスナックを活用する〟という方法論の確立と、それを通じた歓楽街の将来像のスタディを、引き続き着実に進めていく所存です。

スポーツで遊ぶ・つながる イベント準備

スポーツ文化資源プロジェクトチームでは、昨年に引き続き、2020年5月5日（火・祝）の13時から17時までの間、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにて開催される東京文化資源会議主催の「ひじりばし博覧会」内にて「スポーツで遊ぶ、スポーツとつながる」を実施します。

昨年は、ソラシティスタンプラリー、ボッチャ、風船をつかった遊び、オフィス用什器をつかったスポーツ、そして木下秀明氏による講演会「神田発、日本近代スポーツの誕生」など、盛りだくさんなプログラムを用意し、子どもから大人、お年寄りの方まで総勢100名以上の方にご来場いただきました。

今年は、①風船を使ったスポーツ②オフィス de スポーツ遊びに内容を特化して、普段は会議やセミナーの会場として使われているsola city Hallで、集まった人たちと一緒に「遊びの空間」を作ります。風船をつかって身体を動かしたり、卓球、ビリヤード、的当て、カーリングなどのスポーツや遊びに触れたりしませんか。ご家族やお友達を誘って、ぜひ遊びにきてください。

地図活用に向けてアプリで地図を楽しむ

地図ファブプロジェクトと3区（千代田区、文京区、台東区）で組織される三区文化資源地図協議会では、地域で発行されている様々な地図の活用を考えてきました。その成果の一つが、（株）Stroly にご協力をいただいた「その場でスマホで地図を楽しむ」方法です。台東区では、上野の山文化ゾーンのパンフレットを紹介する際にStrolyシステムを活用しています（http://www.city.taito.lg.jp/index/bunka_kanko/torikumi/uenonoyama/panf.html）。

このサイトではパンフレットをクリックするとStroly上にパンフレットの地図が展開されます。当地でスマホで閲覧すると現在地も確認できます。地図協議会の成果がいかされた形ですが、これは協議会からアドバイスはしたものの具体的な作業は台東区の方が自らおこなっています。地図ファブの成果が自立的に波及しています。

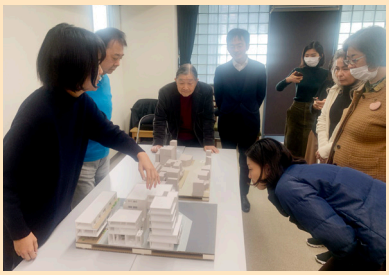
また、現在、荒俣宏先生の『帝都物語』をもとにした地図カタログの作成も佳境に入りました。正式に完成した際には、改めてご報告させていただきます。

谷根千の周辺の文化資源を探る 研究・活動発表会

2月25日に、根津の宮本記念財団ミニミュージアム準備室にて「やねせんあたり研究所」の第1回研究・活動発表会と交流会を開催しました。

発表会では、東大大学院演習「東京の既存市街地のリデザイン」での根津・宮の湯ブロックプロジェクトを受け、まちの課題や大学の演習と実践との連携のありかたについて議論をしました。また、やねせんあたりを中心に活動する3名（谷中・椎原晶子氏、根津・栗生はるか氏、本郷・三文字昌也氏）が、卒論・修論や各種プロジェクトの受け入れの状況、研究・学術調査から実践プロジェクトへの展開について報告し、やねせんあたり研究所としての情報として共有しました。

2020年5月5日に御茶ノ水にあるソラシティカンファレンスセンターで開催される「ひじりばし博覧会」では、地域の卒論・修論研究や実践プロジェクトの発表会を行い、対象地域で研究・活動をする人、これから始めようとする人のネットワークづくりの場を展開することを予定しています。



大学も巻き込み 広域秋葉原の可能性を探る

広域秋葉原作戦会議プロジェクトでは、東京大学や産業能率大学といった大学の授業に協力し、秋葉原が抱える課題に対する解決策を、大学生と一緒に考える取り組みを行いました。これまでプロジェクト内の議論では出なかった新しい観点からの提案がなされ、プロジェクト活動に大きな刺激を受けました。

あわせて、12月7日にTTT（トーキョートラムタウン）構想と共同で開催したアイデアソンで出てきた提案もあわせて、今後の活動の参考としています。

また、これまでの数年間のプロジェクト活動をもとに、今後に向けた新たな活動方針について議論を行い、2020年以降の取り組み目標について策定を行っています。

NOW
TOKYO
PROJECT

5月5日、ソラシティで多様な文化資源を遊び・学ぶひじりばし博覧会開催

東京文化資源会議では、2020年5月5日（火・祝）に、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにて「ひじりばし博覧会2020－ソラシティで遊ぼう、学ぼう！－」を開催します。本企画は、東京文化資源会議の様々なプロジェクトの活動報告や多様な文化資源を学び遊べるための様々なコンテンツやシンポジウムとなっています。

会場であるソラシティカンファレンスセンターの会場を活用し、10時から19時まで、10以上のコンテンツが同時開催で行われる、東京文化資源会議としても一大博覧会になっています。大人から子供まで楽しめ、地域の文化資源を活用するための様々な議論や対話を行う場となっています。詳しくはウェブなどで発信しますので、ぜひ当日は足をお運びいただけると幸いです。

夜の文化資源活用に向けて上野ナイトパークコンソーシアム設立

文化資源の宝庫である上野恩賜公園の夜間における公園や諸施設の活用、周辺地域との連携を図り、歴史と文化の蓄積ある「上野」という地域の可能性を引き出すことを目的に、上野公園を舞台に周辺の文化施設とを連携させた一日限りのイベント「上野ナイトパーク2020」の企画策定を行いました。あいにく、新型コロナウィルスの影響によりイベント開催は延期となりましたが、上野ナイトパークコンソーシアムの設立や、各文化施設とのネットワークが構築されるなど、一定の成果を上げることができました。

今後は、上野ナイトパークコンソーシアムとしての活動とともに体制強化を図り、上野ナイトパーク2020のイベント実施や、周辺文化施設と連動した様々な企画立案を行いながら、夜間を中心とした文化資源活用を図ってまいります。

編集後記

ソメイヨシノが一斉に花を開く様は胸を打たれるほど素晴らしいです。でも花見と言うと桜の花の下で宴会を、と言う方が多いのでは？　花見酒も楽しくて大切な文化ですが、この機会に見事な桜の花を静かに愛でるのも良いものかと思っています。（陸）

新型コロナウィルスの影響などにより、健康や体調管理に敏感な時期です。文化を楽しむためにも、まずは自身の健康が第一です。うがい、手洗いをしっかりし、健康管理を万全にして、日々を過ごしていきたいものです。（江）

産後はじめて息子とともに取材に出かけました。取材中、同席していた仲間に抱っこされて楽しそうに3331を探検。これなら4月からの保育園も大丈夫だと安心できました。（雅）

［ティーチャ］東京文化資源会議ニューズレター　No.11
渋み、旨み、味わいのある東京の文化資源的エキスを3ヶ月に一度、お届けします。

編集：東京文化資源会議広報委員会　デザイン：渋井史生(PANKEY inc.)　執筆：江口晋太朗(TOKYObeta Ltd.)、野口雅乃
写真：鈴木渉　印刷・製本：スターツ出版株式会社　発行人：東京文化資源会議　発行日：2020年3月31日
〒110-0005　東京都台東区上野2-11-1藤井ビル3階　TEL：03-5244-5450　MAIL：info@tcha.jp　URL：http://tcha.jp/